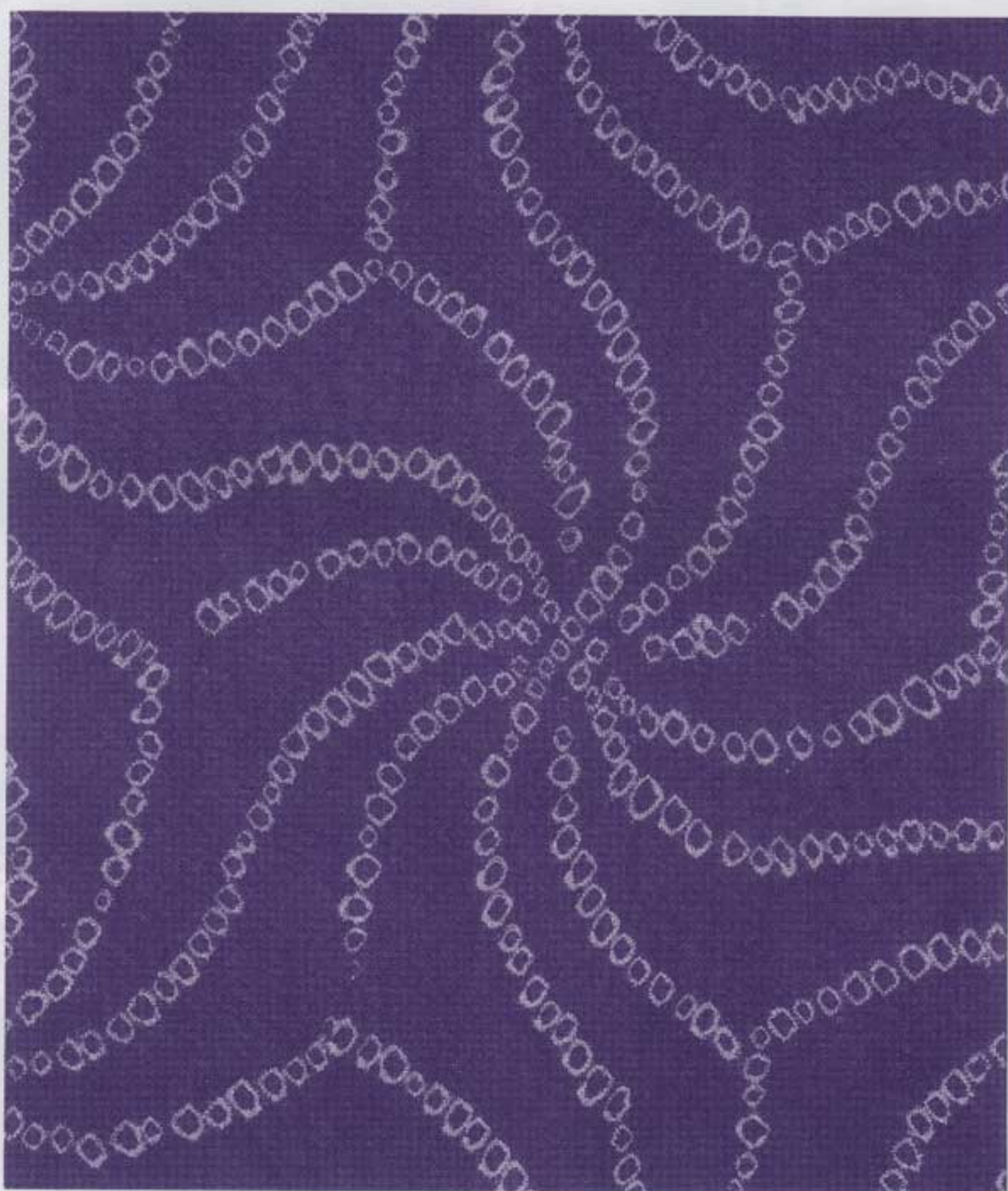


有松

NO.51 2004. 9. 30. 有松まちづくりの会

◇ 人目鹿の子絞り (日本Ⅱ有松・鳴海) 絞り台の上部に取りつけられた鹿の子絞り用腕金の鉤針に布を引っかけ、コロで特に細かく小粒に糸を縦に引き絞る。主に草花や鳥などの図柄を線で表現する時に使用。別名「たて引き絞り」「つめ鹿の子」や「いたこ絞り」と呼ばれている。





わらべ
童

うた
歌

童歌とは昔から歌われ続けられて子供達が遊びに楽しく歌い又子守歌にも歌われてきた歌だと思えます。私達が子供の頃に歌った歌を思いだしてみました。昭和十二・三年頃は日中戦争も激しくなり、戦時色も強くなり軍歌もさかんに歌われる頃でした。私達の楽しみはラジオで相撲放送を聞いたり、雑木林の中で遊んだり、兵隊ゴッコをしたり、近所の小さな広場でメンコ（有松ではシヨウヤコ）、ラムネ玉で遊ぶ玉コッピンなどをして遊ぶことでした。私の記憶のある童歌を思い出し綴ってみました。

「草履かくし」

草履かあくしつうねんぼ

橋の下の小ねずみが

お草履をくわえてチュウチュウチュ

赤豆黒豆ぬきながら煙突どっこいしょ

自分達の草履半足を横一列に並べ全員で歌を歌いながら、最後に残った半足の草履の子供が鬼となり、子供達がかくした草履をさがすという遊びでした。

お手玉で遊ぶ時の童歌

大黒様と云う人は

一に俵をふんまえて

二につこり笑って

三に盃手に受けて

四つ世の中ええように……



近藤好彦

あとは忘れてしまいました。

童歌ではないが「あの一」と云うと「阿野は一里半」（有松と豊明市阿野まで6km位）と云ったり、ポコペンくぐだれがつついたあつちへ行つて安城屋（国道一号線シオンの前にあつた飲食店）

こつちへ行つて蒟蒻屋（松の根橋の少し東）ちよつと行つて長福寺

ずうと行つて瑞泉寺

などそのほかは六十歳以上の方はおそらく知つてみえるでしょう。

一かけ二かけ三かけて 四かけで五かけで

橋をかけ 橋の欄干眺むれば 十七、八の

姉さんが 花と線香を手に持って

姉さんく何処行くの 私は九州鹿児島

西郷隆盛娘です 明治十年その時に

切腹なされた父上の お墓参りに参ります

お墓の前では手をあわせ 南無阿弥陀仏と

となえます

など。その他には

つぼさんくお彼岸参りにいこみやあか

お彼岸参りはええけれど 烏という黒鳥が

足をつつき手をつつき それでよう参らん

わいなあ

ユーモアのある面白い歌でした。次の歌は

良く知られている歌だと思えます。

一番はじめは一宮 二は日光東照宮

三は佐倉の宗五郎 四は信濃の善光寺

五つ出雲の大社 六つ村々鎮守さま

七つ成田の不動さん 八つ大和八幡宮

九つ高野の弘法さん 十は東京博覧会

神社、仏閣、人名を入れた数え歌でした。

次は子守歌です。一般的によく歌われたのは、

坊やが良い子だ ねんねしな

あの山越えて 里越えて

里の土産に何もろた

でんでん太鼓にしようの笛

最後は毛毬子守歌です。有松の竹屋（竹田

庄九郎家、十五代目は瀬戸市在住）を歌った

歌です。明治末から大正の初めまで歌われて

いたそうです。

ここは何処よと子供に聞けば

ここは有松竹屋のうらよ

竹屋のうらには蓮池ござる

蓮池なかにはお舟が三艘

一番舟がお旦那さまよ

二番舟が御新造さまよ

三番舟が竹則さまよ

竹則さまはお馬が上手

落ちんように 跳ねんように

馬の拍子にあうように

チャカポンポン

有松に残る童歌では一番古い歌だと思いま

す。

郷土で歌われ続けられてきた童歌。懐しく

思いだしつつ、少しは間違っているかも知れ

ませんが童歌は是非残してゆきたいと願ひ

ますが、時代の流れとともに残念ですが歌わ

れなくなってしまうでしょう。

弔辞 石川忠臣さんを偲んで



謹んで石川忠臣様の霊前に申し上げます。大先輩である貴殿の訃報に接し深い悲しみで一杯で御座います。

思い返しますと貴殿は昭和四十四年十二月に初めて有松の町に来られ、私の父親と竹田嘉兵衛さんとの出会いが始まり、貴殿の「古い町並み」を残すと云う情熱と意気込みに二人が感銘し、有松の有力者を説得し昭和四十八年「有松まちづくりの会」が発足したのです。そして引続き昭和四十九年には貴殿の御努力によって奈良県今井町・長野県妻籠町・愛知県有松町と三町をまとめ、全国町並み保存連盟が発足致しました。あれから三十年、昨年の秋には「有松まちづくりの会」の三十年記念事業を実施致しましたが、貴殿は御体調が優れない御様子で御参加して戴けなく誠に残念な思いを致して居りました。

又本年は全国町並み保存連盟全国ゼミを石川県大聖寺に於いて九月十七日から十九日まで実施致しその折に連盟三十周年の記念事業も取り行なう予定も致して居り、その頃には貴殿の病も回復し御元氣な御姿で御会い出来る日を楽しみに致して居りましたが残念でありません。

全国町並み保存連盟も昨年NPO法人に組織を変更致しましてやっと一年が経過し、此れからと云う時に貴重な指導者を失い断腸の思いで一杯で御座います。

貴殿が全国各地に於いて歴史と伝統の有る町並みの保存に示された情熱はすばらしいものでした。今追悼の紫煙たゆとう大圓寺の御霊前で貴殿の御元氣な頃の御顔を前にして御生前の御活躍の頃の御姿を思う時、深い悲しみが有るばかりです。貴殿が有松に来られると皆さんから石川さんく〜と大変親しまれ尊敬され信頼され人気者でしたね。ありし日の面影を偲びます時、万感ひし〜と胸に迫り来るもので一杯でございます。

御遺族の皆様のお悲しみを思うとき御悔み申し上げる言葉も御座いませぬ。私共は温厚誠実な故人が残されました御慈愛に満ちた御教示を忘れる事なく、その御意志を引継いで努力して行く覚悟で御座います。

亡き人を終いの別れと弔えど

心は消えずありし面影

御別れのお時が参りました。どうぞ安らかにおやすみ下さい。

合掌

平成十六年六月五日

NPO法人 全国町並み保存連盟

理事長 服部 豊

石川忠臣さん
ありがとうございました

朝日新聞名古屋本社社会部に勤務された九一年間に、石川さんを町並み病の重症患者にしてしまった有松の町並み、日本の町並み運動の歴史の始まりでした。昭和四十四年、まだまだ「町並み」という言葉もなかった頃のことです。この年の暮、石川さんの情熱で朝日新聞社会面のトップ記事となった「有松町保存会準備会」の誕生は、今日ある「有松まちづくりの会」の前身です。産みの親石川忠臣さん、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

二十年近く前、石川さんから三つのご提言をいただきました。その第一は「文化財保護法に基づく重伝建の選定を受ける」ことでした。かけ声や思いだけでは選定は受けられない有松の不甲斐無さをお許し下さい。かつて東大教授故稲垣先生から、「有松の町並みは一流」とお墨付きをいただいた町並みを「町並みはみんなのもの」である誇りをい দিয়ে選定に結べる日を待っていて下さい。

「有松は第二の故郷」と常々言っておられた石川さんには、幾十回有松をお訪ねいただき、ご指導を、ご助言を、ぬくもりをいただきました。平成十四年七月、連盟の理事会を竹田邸で開催した日、奥様の車椅子でご参加（里帰り）いただいた二日間が最後の有松でございました。お身体の心配をしましたが嬉しゅうございました。

石川さんの汲めど尽きぬ知の底にあった熱い思い、輝きを忘れは致しません。ありがとうございます。

(徳田和子)



▼重伝建先進地に学ぶ▲

美濃の町並み

美濃の町並みを愛する会

鈴木

隆

岐阜県美濃市は濃尾平野の北の端、長良川の中流域にあり郡上の山々が途切れるあたりに位置します。関ヶ原の戦い後高山城主金森長近公によって造られた城下町です。金森長近公は一代に三つの町造りを行いました。越前国の大野、飛騨国の高山、そして美濃国の美濃です。都市造りの名人であった長近公はどの町も京の町に倣って碁盤の目に道を造りました。この三つの町の中で一番小さくこじんまりとした町が美濃です。これは長近公が晩年であったことや、世の中が落ち着いてきた時期に出来た町であったと思われまます。江戸時代には商業や流通によって栄えた町ですが近年は時代の流れに取り残されたような感さえあります。古い町並みが残るといふことは一面すばらしいことではありますが、反面いわゆる発展をしなかったことであり活性化しなかつたということではあります。それで約四〇〇年の間基本的な町割りが残り江戸時代の家が何軒も残されたわけではあります。そしてこのことが貴重になり国の重要伝統的建造物保存地区に選定されたのだと思います。

私達町並みを愛する会は、この町並み保存が町の活性化の一助になると信じ活動を続け

てきました。最近では訪れる人も増えてきましたし、町の中にはいろいろな店が出来てきました。地区内に住んでいる人達に少しづつではあります自信が出てきたように思われます。

重伝建の選定はともすると観光の為に行われるように思われますが、一番の目的はそこに住んでいる人が幸せになることであり住みやすくすることです。住みやすい町を目指せば結果として家々の修理・修景も進んでいきますし、道をきれいにする等住民が自発的に自分の町をよくしようと動き始めます。そんな日常のことが観光に来る人に受けているのだと思います。

最近の観光客の動向をみていますと本物志向とか

「美濃和紙」の産地として知られる美濃市。

第28回全国町並みゼミ美濃大会



うだつの上がる町並み

日時：平成17年9月16日(金)17(土)18(日)

会場：岐阜県美濃市美濃町伝統的建造物保存地区

ユックリズムといったちやうど美濃にあてはまったかっこうで運が良かったのかもしれない。

美濃を訪れてくれた人達から「いいところですね」とか「ホッとします」と言ってもらえるようになったことが、ここに住み続けていく自信になっています。今後も美濃の歴史や文化を大切に守り「自分達の町は自分達でつくる」このことを心にきざんで活動していきたいと思えます。

追伸

来年、平成十七年九月十六・十七・十八日第二十八回全国町並みゼミを美濃で開きます。是非ゆつくりと美濃を見てください。



有松まちづくり

思うこと

東邦学園短期大学 教授 山本 正彦

そもそも私自身の専門は会計であり、まちづくりについては、全くの素人である。私は、昨年より数回にわたり有松の絞り産業をはじめとするいろいろな調査をした程度の実績しかない。有松という大きな研究・調査対象の入り口で、右往左往しているレベルであり、困惑しているところである。

「まち」を単に表現すれば、それは、「人が住むところ」ということになる。しかし、「まちづくり」をテーマとして取り上げる「まちは、「その町固有の伝統・文化を創造する場所」として認識されるものではないだろうか。町固有の祭り、町並み、生活様式、文化財、地場産業、観光サービスなどを「かけがえのない町の文化・財産」として評価する必要があるのではないだろうか。

このような認識のもと、有松町は、昭和四十八年、全国の先陣を切って「有松まちづくりの会」を結成し、活動の第一歩を踏み出したと聞いている。その達成目標は、重要伝統的建造物群の選定と町並み保存であるやに聞いている。おりしも、同じ時期に、名古屋市教育委員会が「有松町町並み調査報告書」を

作成している。

その調査報告書の中に当時の町並みの建築物の写真が約百二十枚ほど掲載されている。この三十年間の間にかかなりの数にわたる建築物がなくなっており、町並み保存という点からすれば胸の痛む思いがする。

さらに、同報告書の中で、街道沿いの住民および地区住民の意識に関する二度にわたる調査も実施している。全体として、肯定的な調査結果が示されている。有松町は住みよい住宅・町であること、古い建造物に対する歴史的評価も高いこと、現存のまま保存すべきだとの圧倒的な意見があること、そのためにも、資料館などの公共性を持たせつつ国や県からの財政的な援助が必要であること、絞り産業と町並み保存の結合の必要性といった調査項目の内容集約ができそうである。

昭和五十年頃「有松まちづくりの会」が発足し、町並み保存の気運が高まり、あわせて、教育委員会の調査結果においても町並み保存への潮流を裏付けるような内容になっている。しかし、現実はどうかという点、重伝建の問題にせよ、町並み保存の問題にせよ、事は順

風満帆には運んでいないようである。いろいろな理由が推測できるところであるが、おおむね町民個人と町全体の利害調整に根指す問題ではないかと考える。その一つに、全国で多くの「まちづくり」が成功している。たとえば、馬籠、妻籠、高山、白川など枚挙にいとまがない。そこでの共通点は、まちづくりと経済的要素がリンクしていることであり、その他の選択肢がほとんど無いと言う点にある。これに対し、有松はいろいろな選択肢を取りうる可能性があることである。絞り産業というしつかりした地場産業があること、土地の有効利用としてのベットタウン化が可能であることなどが「まちづくり」の阻害要因となっているのではあるまいか。

その二として、町並み保存をするためには原則として古い家屋等について保存しなければならぬと思いつつも、保存すべき家屋の所有者は、さまざまな利害の狭間で問題を抱え込むことになる。

有松まちづくりの問題については、町全体の問題として個人的な利害と多くの住民の合意形成をどのように調整するのか、さらに、まちづくりに対する住民意識の形成にどのような努力をしていくのかが、今後の課題として大きくのしかかってくるような気がしてならない。まだまだ、大きな山をいくつも超えていかなければならないのは言うまでもないであろう。



町づくりへの想い

有松学区区政協力委員会 委員長 小澤 武夫

この四月から、二十六年間の永きに亘り有松学区区政協力委員長・町内連合会長を歴任された前任者の後を継ぐことになりました。もう五か月になろうとしています。私は十二年間、単位の区政協力委員・町内会長の任にありましたが、毎月の区政協力委員会で確認されたことを自分が受け持つ町内のまとめをすることが主（これだけでも結構時間が取られ、気遣いも大変なのですが）だった役域から、いきなりあれもこれももの仕掛役という全く規模の違う立場に飛び込まされて、記録的な猛暑の続いた今夏に負けない熱いドタバタの日々を過ごしてきました。

有松に育ち有松に暮らしていたとはいえ、多くの有松の住人と同じように、家は食事と入浴、就寝のために有るワンパターンの繰り返し。ただ、有松を故郷と想い、なんとなく沈んだ空気のある町、子どもたちが大人になったとき「有松は私のふるさと」と言える楽しい思い出をいっぱい持つことのできる町にしたいと、休日など家に居る時間はできるだけ町内会、子ども会のことには費やしてきました。

ですから私の区政協力委員長としての一番の抱負は有松に暮らす人の誰もが「有松は私のふるさと」と楽しく語れるようにすることです。そのためには、これまでにもこの「有松」誌でも多くの人が語られておられるように「有松の先人が培ってきた有松のかけがえのない歴史や文化」を絞り、旧東海道と町並み、桶狭間古戦場と風土をただ保存するのではなく今に活かし、未来につなげることでしよう。ただ、言葉にすることは簡単でも、これをすすめることは大変なことを考えています。その大変なことの一つに「地元（有松の住民）の意見の統一」があります。

有松学区町内連合会の会員世帯は三千二百世帯となりました。住民階層も多岐にわたっています。防犯、防火、防災と減災、交通安全、保健、福祉、青少年育成、スポーツ振興、環2道路建設に伴う工事被害と運用後の環境被害を許さない対策など「安心・安全まちづくり」への区政協力委員会に課せられた役割は実に広きにあります。さらに区政協力委員会は有松の皆さんのご理解とご協力なくしては叶わない「有松コミュニティセンターの建

設」「有松消防団新詰所・有松防災会館（仮称）の建設」という大事業にもとりかかっています。

これらのさまざまな事柄を有松のまちづくりの事業として、情報公開と率直な意見交換を積み重ねて「意見の統一」をはかり一つ一つ適切にすすめていくと思います。

本年六月の「第二十回有松祭りまつり」に学区区政協力委員会は初めて正式に協賛参加をし、昨年から加えられたイベントの「町民総踊り」を支援し、新企画の「子ども福引とお菓子プレゼント」を有松学区子ども会連合会と共同で担当しました。この協賛は、祭りまつりを「商工祭りから有松ふるさとづくりへ発展させる」ことが町を愛する心の蓄養と住民の意見の統一につながると、区政協力委員の皆さんの賛同が得られたことによるもので、区政協力委員会が有松の町づくりへの協同の輪へ加わる第一歩が開かれたと考えています。

私は、この「町民総踊り」で有松の祭りや商工関係の若い跡取りの人たちの町興し（おこし）へのエネルギーに触れることができ「有松、捨てたもんじゃない！」と感動しました。この感動はその後の町並み保存のための共同の取組み、そしていま「有松桶狭間観光振興協議会（仮称）」の設立への参加・賛同へ引き繋がれています。

有松界隈

(17) 姥子山

名鉄有松駅から細根に向かう、すぐ三叉路にぶつかる道を右にとり丘陵地を登りつめると、大きな弘法大師像が立つ。この辺は姥子山の中心であり、戦前は雑木林の茂る何も無い所であった。

◆ 立弘法たちこうぼう（昭和七・八年建立）

石造りで五米余りの「立弘法」と呼ばれる大師像は誰が建てたか定かではない。しかし今も幸島家の一郭に祀られ幸島幸江さん達によつてお守りされている。

大師像前の道も大きく広がり木立の中の立弘法さんも、昔に比べて緑も大変少なくなつた。この背後から眺める御嶽山、足助の山々



眼下に市街地も一望でき、姥子山も住宅地として大きく変貌している。少し東へ坂道を下ると聖願寺さんである。

◆ 光耀山聖願寺 華嚴宗

草創開山 松尾精山尼 開基 聖願和尚

本尊 不動明王（作者不明）

脇仏 (左)弘法大師 (右)観世音菩薩

仏像 三十六童子 水子地藏像

阿弥陀如来像

精山尼は病のため信仰の道に入り参籠祈願或る夜弘法大師の霊夢を感じ鳴海東の山中に霊泉を発見、聖願和尚と信者の協力を得て、昭和八年この地に一字を建立した。

人家の少ないこの山中に開山した初代精山尼住職、これを助けた聖願和尚、東大寺より派遣され二世住職として法燈を継がれ、お不動さんと呼ばれた聖願寺の興隆に努力された川原正圓和尚、そして現在は三代目として川原正和住職である。

本堂は華やかさもありません。不動滝、観音堂、納骨堂各お堂があつて、手入れの行き届いた境内には桜、松など植えられ裏山に続く小道は数多くの石佛が並ぶ。

この裏山に土俵が作られた。今年の名古屋場所より大関魁皇率いる友綱部屋が、ここを宿舎とし稽古に励んだ。

地元相撲部屋 この機会に後援会、ファンクラブに入会されませんか。

〈問い合わせ先〉

聖願寺川原住職迄 電話六二一〇七二二

※資料 聖願寺の歴史。緑区の史跡と文化財

※地元の神谷錦次氏・池上秀子氏より助言を頂き御礼申し上げます。
(成田 治)



“ゆつたりと行く” “あつたらもんと共に”

▼急ぎすぎた百年をふりかえり 本来の景観を取り戻そう▲

昨年「有松まちづくりの会」は結成三十周年を迎えましたが、結成の翌年に、有松に妻籠と今井町の人たちが集まって、「全国町並み保存連盟」を設立してから今年は三十年になります。これを記念して石川県の加賀市と山中町を中心に「第27回全国町並みゼミ」が開催されました。

加賀市と山中町は、もともと江戸時代には大聖寺前田藩領として一国であったことから「大聖寺大会」と命名されました。ちなみに、加賀市と山中町は現在、市町村合併を構想しているとのこと。加賀市と山中町を合せて「大聖寺大会」と命名することで、昭和30年代の経済成長期に市と町に行政区画されてしまった歴史的な風土を、もう一度、見直そうとしたところに、今回の開催地の皆さんの熱意がこもっていたように感じられました。

“あつたらもん”は加賀地方の方言で、“ものを粗末にしない”という意味で、ここにも、急ぎすぎた経済成長のなかで、我々の時代が見失ったものを取り戻そうとする今回の大会の意図がこめられていました。

大会は服部豊連盟理事長の挨拶に続いて、地元の子供たちによる創作ミュージカルなどの催しの後、各地からの報告、三十周年記念式典、テーマごとに分かれての分科会、永六輔さんの特別講演などが三日間にわたって行われました。

なかでも一番印象的であったのは、「連盟三十年の歩み」と題したパネルディスカッションでした。これには「有松まちづくりの会」から服部会長と徳田和子さんが参加し、服部会長からは、くしくも先代が連盟の初代会長を務めた縁が、徳田さんからは女性として町並み保存に関わってきた内輪話などが披露され、ゼミに参加した全国の人たちに感銘深く三十年の歩みを振り返らせてくれました。もう一つ三十年を思い返させられたのは、「有松まちづくりの会」と「全国町並み保存連盟」の生みの親、石川忠臣さんの追悼でした。会場の皆で石川さんの死を悼んで黙祷を捧げましたが、壇上にあがられた奥様が目頭を押さえられていたお姿は、三十年を節目に一つの時代が終ったことを感じさせるものでした。



「連盟30年の歩み」パネルディスカッション

町並み保存が三十年の歴史を経て、大きな節目を迎えたことはさまざまな分科会や、開催地である大聖寺の町づくり姿勢からも窺えることでした。

おりしも、六月には「景観法」が制定されました。来年からこの法律を基にして、全国各地でさまざまな町並みや景観の保存が積極的に展開していくと思います。イオンの進出や、世代交代に伴う一筋縄ではいかない問題やら、これからの有松を考える上でも大変意義ある「町並みゼミ」でした。

来年は美濃で開催されます。(藤木良明)

東海道一方通行化について

山車会館プロジェクト 交通形態班 山田 剛生

有松に生まれて、今年で五十年になりました。私の育った昭和三十年代は、東海道は子供達にとって、格好の遊び場であった。こま回し、メンコ、鬼ごっこと休日になると朝から晩まで遊んだものだ。そんなのどかな時代も時がたつにつれて、一変した。国道一号線に大量の車が行き交うようになった。同時に東海道を抜け道として利用する多くの車が、流入してきた。今では、時間帯によって東海道は大渋滞を起こし、歩行者にとっては非常に危険な時さえある。昨年十月に、一号線から有松駅に抜ける南北線が開通し、優先交通が東海道から南北線へ移行した。そしてこの数カ月の間に接触事故や人身事故が有り、中町交差点の信号機の必要性も強く感じている。さて、プロジェクトが推進する東海道一方通行化は、東海道を規制することにより通過車両を減らし、より安全に歩行者が通行して頂くための事業です。これまでに、東町、中町、西町三町内会への説明会、三町合同説明会、二回のアンケート調査を実施して参りました。現時点での皆さんの意見を総合しますと、賛成意見の中には、お年寄りや子供達が安全に歩行する事ができると思うので実施してほしい。条件付賛成では、時間帯規制なら賛成、迂回路の規制が確立できれば賛成等の意見、反対

意見として、商売の妨げになるのでやめてほしい、一方通行にすると駐車車両が増え、スピードを出す車が増えるので反対等の意見がありました。この事業を実施するには、住民の皆様の大多数の賛成が必要です。ただ、説明会への参加、アンケート調査の返信が非常に少なかったのは大変残念であります。住民の皆様の、この事業に対する意識の向上を強く望んでおります。

ここで、我々の掲げる有松活性化のキーワード三本柱についてお話し致します。古い町並み、絞り、山車まつりとこの三本柱を軸にこの地有松を全国にアピールし、近年來町者の数も増えております。少し前になりますが、絞会館へお越しになった方々に対し、アンケート調査を行いました。その中の意見で、古い町並みや絞り店を見学しようと東海道を歩いてみたが、車が多すぎてゆっくり散策できなかったという意見が一番多かった。年々、来町者の数も確実に増えている昨今、東海道を規制し通過車両を減らす事が、この地が発展し、活気づくためのステップになると思えます。同時に、住民の皆様も安心して生活できる町づくりのため、何卒ご協力をお願い致します。

ギャラリーフツカ

galerie
◆
fucca
weekends

有松鳴海絞会館の前に土・日だけ開館している小さなギャラリーがあります。通りからはあまりにも目立たなくて気がつかない方も多いのではないのでしょうか。

ギャラリーの名前はフツカ。これは服部の「フク」と幸福の「フク」をかけあわせたものです。このギャラリーは文化財建築物の公開とアートの展示という2つの機能を果たしています。なまこ壁や瓦の黒さ、漆喰の白さといったものが有松のハード・ウェアとするならば、建物内部は人を主題としたかったので。芸術といった分野は宇宙や自然、孤独や愛といった人が生きる上での様々な要素をテーマにしてみました。

フツカによってフォーカスされたアートというソフト・ウェアと蔵というハードが織り交ざりながら、時として誰かの心の地図にランド・マークをつくる。そんなギャラリーを目指しています。

服部安輝枝

◆開館期間

4月〜翌1月

の土・日

13時〜18時

◆休館期間

2月〜3月

月〜金・祝祭日



■有松まちづくりの会

平成十六年度総会を開催

《有松まちづくりの会総会》

有松まちづくりの会の平成十六年度総会が六月十七日(木)午後一時三十分より、有松・鳴海絞会館大会議室にて、満場の会員出席のもとに、盛大に開催されました。

開会の辞、服部会長の挨拶、議長選出(服部会長が議長に選出されました)と続いて、議事に入りました。

第一号議案では、平成十五年度の事業報告と事業活動の収支決算報告、三十周年記念事業収支決算報告及び監査報告があり、それぞれ承認されました。続いて第二号議案で平成十六年度の事業計画及び収支予算案の報告がありそれぞれ承認されました。

質疑応答では、会員から「緑を生かしたまちづくり」、「今有る建物をいかにして保存していくか」、「空家対策をいかにしていくか」等今後のまちづくりに対する貴重なご意見をいただき、その後来賓の祝辞を賜って、平成十五年度から始まった新体制の有松まちづくりの会の総会は滞りなく終了しました。

《講演会》

総会終了後、愛知産業大学教授の藤木良明先生の「石造り遺産と木造文化財 アンコールワットから有松を考える」と題した、講演会が開かれました。

藤木先生が、かつて調査されたアンコールの石造り遺産から日本の木造文化財と共通するものを拾い出し、異なる文化の中にある、人の営みの類似性を探ろうとする大変難しい問題に取り組んでおられるお話をしました。最後に「景観法」のお話をされて、有松を「景観地区」に指定して、「景観協定」を結び、「景観重要建築物」の指定等を行うことが、最終的に有松まちづくりの会の一つの目標である「重要伝統的建造物群保存地区」選定への近道になるのではないかとのお話でした。

(丹羽淳一)

平成16年度 事業計画
(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

予定事項	予定月日	備考
第10回春姫道中	4月4日	本丸御殿再建をめざして
町並み研修会	4月14・15日	城下町・龍野と港町・室津
全国町並み幹事会	4月17・18日	伊勢河崎
懇話会	5月28日	有松都市整備事務所・教育委員会文化財室
第20回有松祭りまつり	6月5・6日	町並み案内 有松あないびとの会 有松よもやま話 第7号
平成16年度総会	6月17日	平成15年度事業報告・決算承認 平成16年度事業計画・予算承認
講演会	6月17日	愛知産業大学 教授 藤木良明氏 アンコールワットから有松を考える 「石造り遺産と木造文化財」
第27回全国町並みゼミ	9月17～19日	石川県加賀市大聖寺大会
会報発行有松51号	10月	2,500部発行
町並み研修会	11月	伊勢河崎(日帰り)
第19回歴史勉強会	11月	梶野 渡 氏
懇話会	12月	教育委員会文化財室・有松都市整備事務所 緑区まちづくり推進部・役員・世話人
役員、世話人会	1月	
文化財防火デー	1月26日	緑消防署・町内会・他
第20回歴史勉強会	3月	講師未定
会報発行有松52号	3月	2,500部発行
役員、世話人、編集会議		随時実施

平成15年度 事業報告
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

実施事項	実施月日	備考
春姫道中	4月6日	本丸御殿再建をめざして
町並み研修会	4月9日	近江八幡と安土城址を訪ねて
全国町並み幹事会	4月19～21日	福岡県八女市
第19回有松祭りまつり	6月7・8日	町並み案内、有松よもやま話 第6号
平成15年度総会	6月19日	平成14年度事業報告・決算承認 平成15年度事業計画・予算承認 日本ど真ん中祭り組織委員会 若さと情熱で夢づくり 専務理事 水野 孝一 氏
講演会	6月19日	
第17回歴史勉強会	7月17日	有松の古文書をひもとく 青山 勢治 氏 絞りと街並み 竹田 浩己 氏
重伝建勉強会	8月21日	福岡県八女市 北島 力 氏
30周年記念事業実行委員会	9月5日	有松まちづくりの会30周年実行委員会の選定
第26回全国町並みゼミ	9月19～21日	幡原市 今井大会
会報発行有松49号	9月30日	記念特集号 2,000部発行
有松まちづくりの会 30周年記念	10月18・19日	町並みツアー・お茶会・パネル展・交流会・シンポジウム・対談 他
事業実行委員反省会	11月27日	校会館 実行委員
役員会	1月7日	商工会 平成16年より毎月第1水曜日実施
懇話会(町並み保存)	1月24日	教育委員会文化財室・役員・世話人
第18回歴史勉強会	2月20日	桶狭間合戦始末記 梶野 渡 氏
懇話会(電柱地中化)	3月10日	有松都市整備事務所・役員・世話人
会報発行有松50号	3月31日	
役員、世話人、編集会議	随 時	延32回 実施

花衣の会 結成記念の集い

▼松原名古屋市長と親しくお話をする
新緑が眩しい四月二十六日、有松を中心に市内のいろ／＼の場で活躍している女性達三十六名が、竹田邸へ集りました。

松原市長をお招きして、事例発表と意見交換、交流会「花衣の会」の発会です。

市長のお迎えは、西の祇園寺前から町並み景観を徒歩で案内です。有松らしさを見て感じて印象を深めるに十分です。開口一番「電柱が邪魔だね」のコメント。途中でまちづくりの現状と課題を説明し、今後の方向性と期待を熱く語り伝えました。

会場は竹田邸の庭の野点席と書院です。日頃の子育て、幼児教育の現場で働く女性の悩み。ゴミ資源・食品等の生活環境を守り地域に尽力する人。有松まちづくりの住民希望・町家再利用等、女性の立場から素直な質疑応答の機会になりました。

しかし、市財政の事情もあり、私達の切望する満開の花衣でなく、行政と住民の協働の実践の申し合せの集いでした。

(加藤紀子)



まちづくりの春夏



▲春姫道中 有松絞り隊

4月4日

▼あいにくの雨 大津通りを練り歩いた 来年は万博へ



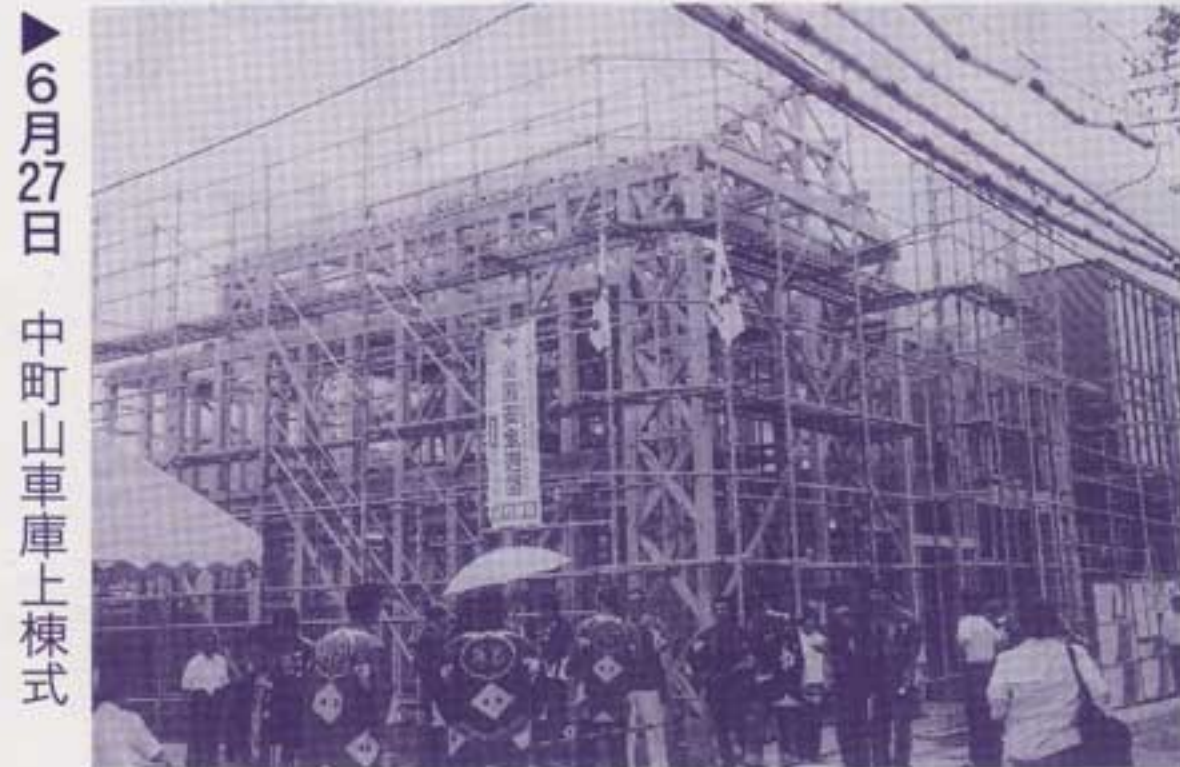
▲まちづくりの会 一泊研修旅行
生きている城下町 博物館 兵庫龍野

4月14・15日

▼本陣が六軒もあった宿場 室津
瀬戸内海 素敵な景勝 港町



▲6月5・6日 第20回絞りまつり
はたちのありまつ宣言



▲6月27日 中町山車庫上棟式



▲なごやドーム ヤクルト戦 ゆかたデー

7月6日 ▼有松絞りを着て ドラゴンズを応援しましょう
今年は優勝だ!



新しい「道」の話

八月有松あないびとの会定例学習会で国土交通省 中部地方整備局 大川 明氏の「道」について説明がありました。

一、環状二号線開通で、国道一号線周辺の交通と環境の変化について

二、東海道を含む、歩く人の道の考え方

三、一号線から大垣共立銀行まで、将来の美しい街路樹の保護育成と住民の協力

往来・運輸の幹線道路も、人に優しい生活道も大切な道です。利便性だけでなく安全な道の考え方が明示されました。(加藤紀子)

◆研修旅行◆ お伊勢参り客の台所

“伊勢河崎”を訪ねます

◆日時 十一月十七日(水)

歴史を勉強する会のお知らせ

◆日時 十一月二十六日(金)

◆講師 梶野 渡氏

◆主な来訪者◆

- ・ことふれんど
- ・赤江橋会
- ・京都造形大学 地域芸術遺産研究
- ・東京日経旅行クラブ
- ・三重県久居市 七栗公民館
- ・岐阜セカンドライフくらぶ
- ・濃尾古城探訪会
- ・国際連合地域開発センター
- ・東急トラベル(株)
- ・近鉄友の会
- ・彦根城博物館友の会
- ・東武トラベル 静岡
- ・コスモスの会
- ・東邦コミュニティカレッジ
- ・名古屋 高年大学ハイキングクラブ
- ・豊田市 加納小学校
- ・こども教育支援財団
- ・愛家研
- ・山梨県 南アルプス市文化協会
- ・くくりこの会
- ・高年大学 福祉OB会
- ・NPO アクティブエイジ なごや



藍染川

中濱 郁雄

梅雨明けて藍染川に一条の

藍色の水流れて止まず

水涸れし藍染川に小鳥来て

水藻を食らし日射し強き日

朽葉も黄葉もなべて水に透き

藍染川は秋に入りたり

縫い針に秋の光りを受けながら

バラの花括る針目正しく

(中部短歌会同人)

◆編集後記◆

▼ 久しぶりに「有松」の町並みを歩いてみました。町並みには、いつの間にか、絞り店の他に、陶器や漆器など商うギャラリーやアトリエ、手作りのパン屋さんなどが店開きし、それぞれ盛況のようでした。この「有松」に連載されてきた「有松界限」や「絞り小路」をその歴史を思い起こしながら、歩くのは実に楽しいものでした。

かつて、JR東海の須田寛相談役が「伝統工芸のまち有松では、観光客に絞りを買って貰うだけでなく、例えば絞りを体験して楽しんで貰うようなことをすれば、これは、立派な観光資源になる」と話されたが、近く始まる愛知万博とこうした点でコミットできれば、実に楽しい町おこしではないかと思われるのです。(鶏飼 満)

▼ 数々の感動を与えてくれたアテネオリンピック。選手自身の努力は底知れぬものとの想像は難くないが、選手を支える体制のすこさも改めて感じさせられた。勝つことの方法・手段を多角的に分析してサポートする。選手一人一人が「チーム○○」なのだ。

江戸の昔より先人から受けついできた有松の町並み、絞り産業、山車。これを守り、次世代・次々世代に渡して行く為に「チーム有松」には今何が必要なのだろうか。今号より重伝建先進地の方々に「寄稿」いただきます。

「チーム有松」強化に役立つものと確信しております。(加藤明美)

発行 有松まちづくりの会

〒458-0901 名古屋緑区有松町橋東南(有松商工会内)

TEL (052) 622110178

FAX (052) 62217401